

都市臨海部のホテル付帯施設における利用状況および利用者の意識 — マリーナおよびテニスコートにおけるアンケート調査結果 —

Utilization Status and Visitors' Perception of Incidental Facilities in Urban Waterfront Areas
— Marina and Tennis Court Questionnaire Survey Results —

片山正敏*

Masatoshi Katayama

The incidental facilities of waterfront hotels, such as tennis courts and marinas, are constructed for urban waterfront utilization. In designing and planning a waterfront it is necessary to determine the significance of the waterfront to urban residents and to reflect such considerations in environmental planning, as well as to clarify variations in visitors' behavior and perception of the waterfront.

To this aim, a questionnaire survey, as previously reported, was conducted of the Kitakyushu and Fukuoka Cities' private and public marinas, regarding "Utilization Status and Visitors' Perception". A similar questionnaire survey was conducted on the marina and tennis court of the Hotel UMINONAKAMICHI, which serves as accommodation for visitors to the Uminonakamichi Seaside Park.

This paper will begin by introducing a summary of the marina and tennis court of the Hotel UMINONAKAMICHI, followed by details and analysis of the questionnaire survey, and characteristics of urban residents' ideas and perceptions toward each of the facilities.

Keywords : Marina, Waterfront Development, Marine Recreation, Questionnaire Survey

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用形態の一つとして、近年の海洋性レクリエーションの要請に対応した「マリーナ」が挙げられる。このようなウォーターフロント開発関連施設の基本計画・設計にあたっては、利用者である都市住民の水辺空間に対する行動・意識過程を明らかにするとともに、都市生活者にとっての水辺の意味を探り、環境計画などに反映することが大切である。

この観点から、北九州市の「公共マリーナ」や福岡市の「民間マリーナ」における「利用状況および利用者の意識」に関するアンケート調査を実施し、その結果についてはすでに報告した。^{1), 2)}

引き続いて、福岡市にある国営海の中道海浜公園の利用者のための宿泊施設である「ホテル海の中道」の付帯施設であるマリーナおよびテニスコートにおいて、同様なアンケート調査を実施して、利用者の利用状況や意識について調査・分析を行った。

この調査では、平成7年7月～8月の間（合計10日間）、①来訪者の属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について、マリーナにおいて合計30項目、テニスコートにおいて合計28項目からなる「アンケート調査」を実施し、結果を分析した。なお、マリ

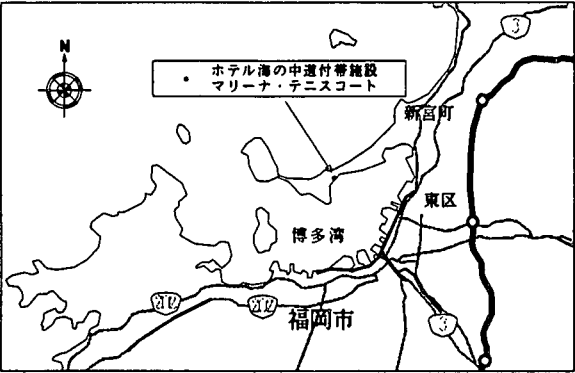
ーナのみでなくテニスコートも併せて利用する来訪者には、さらに上記項目のほかに、①施設の利用状況、②施設利用前の意識、③施設利用後の意識について、8項目を追加して調査した。

本論文では、アンケート調査の内容をできるだけ詳細に報告するため、得られた基礎データの一次統計量に主眼を置き、若干の考察を加えることとする。このため、まず、ホテル海の中道の付帯施設であるマリーナおよびテニスコートならびにアンケート調査の概要について簡単に紹介し、続いて、アンケート調査結果についてマリーナとテニスコートでの結果を比較しながら詳細に述べる。

2. マリーナおよびテニスコートの概要

ホテル海の中道の付帯施設であるマリーナおよびテニスコートは、国営海の中道海浜公園の一画のリゾートエリアにある。（図-1参照）同公園は福岡市東区の博多湾と玄界灘を隔てる半島、通称「海の中道」の中央部約6kmの区間に、広さ約540haにわたって位置している。旧米軍博多基地として使用されていたこの地区は、昭和47年に返還され、跡地利用について種々の検討が行われた。現況が良好な自然環境を有することから、大規模都市公園として広く国民の利用に供することとなり、

* 正会員 九州共立大学工学部土木工学科（〒807 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8）



図－１ ホテル海の中道付帯施設の設置場所

昭和４８年から公園建設に関する本格的な調査が進められ、昭和５０年５月に都市計画決定が行われ、事業が着手された。昭和５１年１２月には起工式が行われ、昭和５６年１０月より全体の約１／１０にあたる５９haについて供用が開始され、その後も整備が完了した区域より順次開園しており、現在は約１８９haが多くの人々に利用されている。

ホテル海の中道の付帯施設であるマリーナおよびテニスコートなどの公園事業は、建設省九州地方建設局が担当し、設置者である住宅・都市整備公団と㈱福岡地所が契約を交わして、その系列会社である㈱福岡シテイクラブが管理運営を行っている。

海の中道マリーナは、「ホテル海の中道」の付帯施設として整備され、昭和６２年にホテルやテニスコートとともに、クラブハウス棟、ボートヤード、修理サービス施設の整備が完了し、昭和６２年４月にホテルやテニスコートがオープンし、マリーナは昭和６３年６月にオープンした。なお、マリーナでの舟艇の保管能力は３００隻（注：すべて陸上保管）であり、テニスコートでは、１４面の全天候型オムニコートがある。

３．アンケート調査の概要

今般のアンケート調査を実施するにあたっては、事前に、㈱福岡シテイクラブのホテル海の中道および九州共

表－１ アンケート調査の概要

調査対象	ホテル海の中道の付帯施設のマリーナ・テニスコートへの来訪者全員
調査期間	平成７年７月～８月の１０日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目（マリーナ３０・テニスコート２８）、合計（マリーナ５０・テニスコート４７）
回収数	マリーナ３７９・テニスコート３５２
有効回収数（率）	マリーナ３５６・テニスコート３２８ （９３．９％）（９３．２％）
全回収率	７３１（６８４） ９３．６％

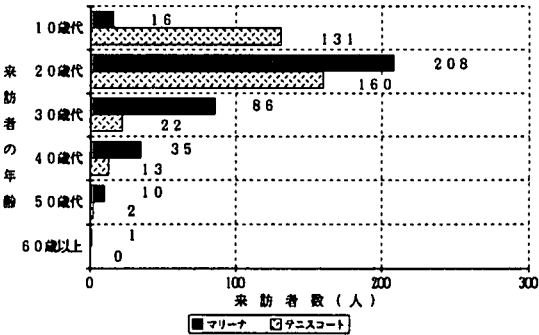
なお、有効回答率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

立大学の関係者により、調査場所であるホテル海の中道のクラブハウスにおいて、調査内容（項目）、要領、日程などについて打ち合わせを行った。アンケート調査の概要を表－１に示す。なお、調査実施日は土・日曜日とし、調査時間は１０：００～１８：００とすることとした。

４．来訪者の属性、居住地

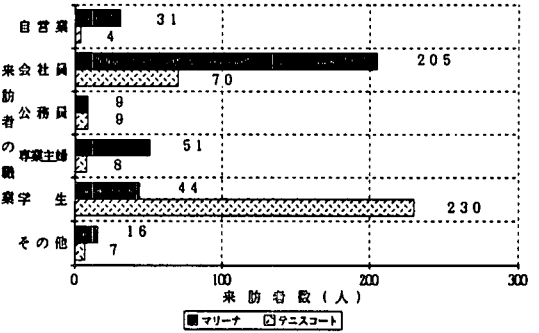
（１）来訪者の年齢、性別

来訪者の年齢は、マリーナでは、来訪者の約５８％が２０歳代で、続いて３０歳代が約２４％を占めており、夏場のマリトレジャーの特徴が現れている。テニスコートでは、２０歳代（約４９％）、１０歳代（約４０％）と１０歳代の若者がかなり多い。これは調査期間中（２日間）に近隣大学の学生によるテニス大会が開催されたことにもよると思われる。（図－２参照）



図－２ 来訪者の年齢

また、来訪者の性別では、男性が、マリーナで約５１％、テニスコートで約５２％と、女性を上回っている。



図－３ 来訪者の職業

（２）来訪者の職業、区分

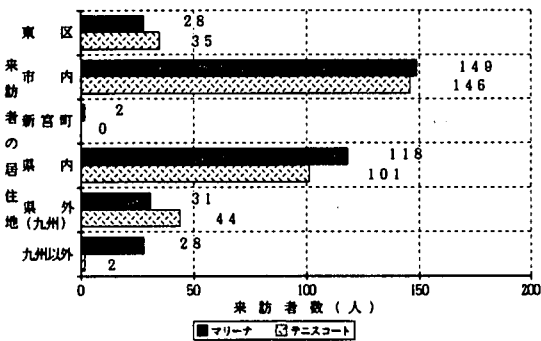
来訪者の職業は、マリーナでは、会社員が約５８％と多く、テニスコートでは、学生が約７０％と多い。これは、スポーツとしての特性のほか、経済的な面も影響しているように思われる。（図－３参照）

また、来訪者の区分としては、マリーナでは艇置オーナーやクルー（同乗者）が約３９％（１３９人）、一般約４８％（１７０人）、テニス約１３％（４７人）となっており、テニスコートでは、テニスが約８６％（２８２人）、一般約１４％（４５人）であり、それぞれ特徴がみられる。

（３）来訪者の居住地

本調査では、来訪者の居住地として、地元の東区、隣

接の新宮町、市内、県内、県外（九州内）、九州以外として区分した。マリナーおよびテニスコートともに、福岡市内からがそれぞれ約42%、約45%であり、続いて福岡県内からがそれぞれ約33%、約31%となっており、大規模都市公園としての特徴が現れている。（図－4参照）



図－4 来訪者の居住地

5. 来訪目的、来訪頻度、交通手段

(1) 来訪の目的

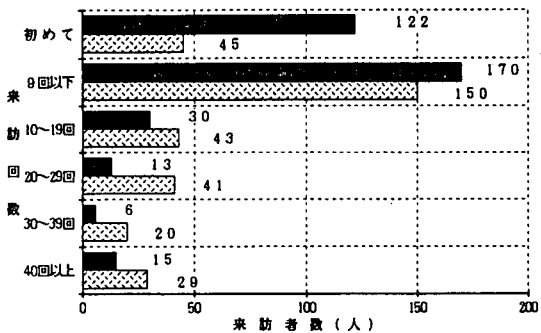
来訪の目的（複数回答）は、マリナーでは、クルージングが約38%（154人）、マリンプレイ約17%（67人）となっており、テニスコートでは、約81%（290人）がテニスと回答しており、テニスコートの方が当然のことながら、目的意識が明確である。

また、クルージングにおける船上での行動目的は、クルージングを楽しむが約65%（139人）と多い。

(2) これまでの来訪回数

これまでの来訪回数は、マリナーでは、9回以下が約48%、初めて約34%となっており、テニスコートでは、9回以下が約46%であり、続いて、初めて、10～19回、20～29回が13～14%となっている。

（図－5参照）



図－5 これまでの来訪回数

(3) 来訪の頻度、交通手段、所要時間

来訪の頻度は、マリナーでは、初めてが約34%（122人）、1～2回／年約29%（102人）、3～4回／年約28%（99人）となっているが、テニスコートでは、3～4回／年が約44%（145人）、1～2回／年約20%（67人）、初めて約15%（50人）と逆の傾向にある。

交通手段は、マリナーおよびテニスコートともに、公共交通機関の利用の便がそれほどよくないこともあって、自家用車がそれぞれ約78%（277人、263人）と多い。また、テニスコートまでの所要時間（x）と来訪者数（y）との関係について、単回帰分析を行った結果、次のような関係式が得られた。（検定結果は信頼度95%で有意、相関係数：-0.8825）

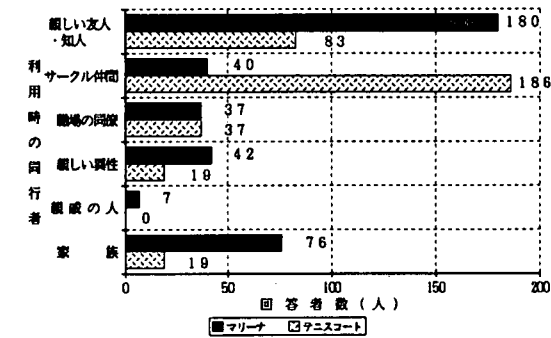
$$y = 125.3 - 40.34x$$

なお、マリナーまでの所要時間と来訪者数との関係については、このような有意な結果は得られなかった。

6. 施設の利用状況

(1) 利用時の同行者

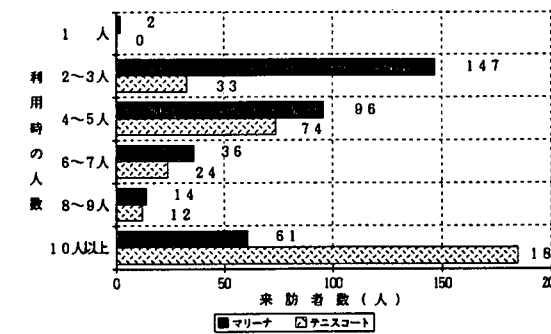
利用時の同行者（複数回答）は、マリナーでは、親しい友人・知人が約47%、続いて家族が約20%となっているが、テニスコートでは、サークル仲間が約54%、続いて親しい友人・知人が約24%となっている。（図－6参照）



図－6 利用時の同行者

(2) 利用時の人数、利用（滞在）時間

利用時の人数は、マリナーでは、2～3人が約41%、続いて4～5人約27%となっているが、テニスコートでは、10人以上が約56%、続いて4～5人が約23%となっている。これは、先にも述べたように、テニスコートでは、調査期間中（2日間）大学生による大会が開催されたことにもよるとと思われる。（図－7参照）



図－7 利用時の人数

また、利用（滞在）時間については、マリナーでは、1～3時間が約44%（157人）と最も多く、テニスコートでは、5時間以上が約47%（153人）と最も多い。マリナーでは比較的短時間のクルージングやマリ

ンプレイが多かったのに対して、テニスコートでは比較的長時間の大会などがあったことによると思われる。

(3) 各種施設の利用状況

マリーナの各種施設の利用状況を図-8に示す。全般的に「利用しない」と「利用してみたい」と回答のあった施設が多い。

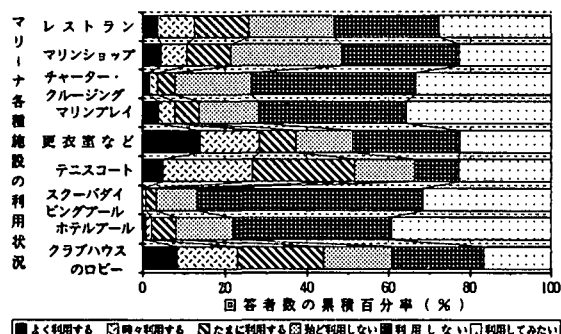


図-8 マリーナの各種施設の利用状況

(4) 海の中道海浜公園の各種施設との連携利用

国営海の中道海浜公園にある各種施設との連携利用について、マリーナおよびテニスコートでの調査結果をそれぞれ図-9、図-10に示す。両者ともに、ほぼ同様な傾向を示している。

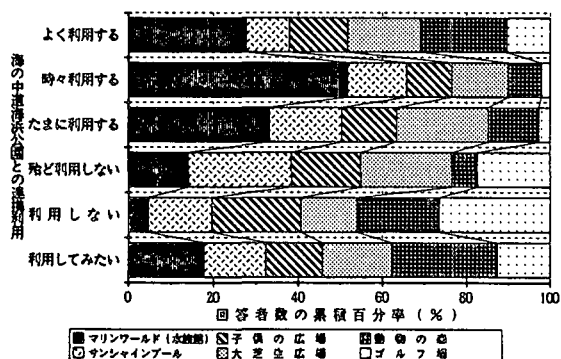


図-9 海の中道海浜公園の各種施設との連携利用
(マリーナにおける回答結果)

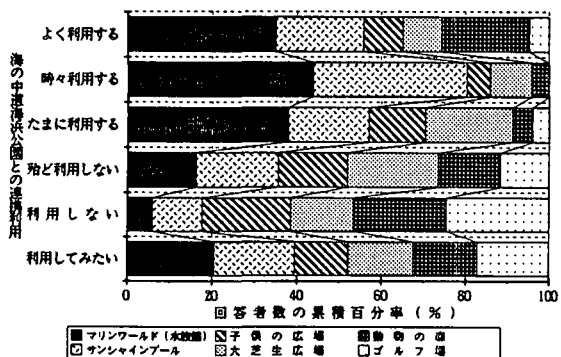


図-10 海の中道海浜公園の各種施設との連携利用
(テニスコートにおける回答結果)

7. 施設利用前の意識

(1) 施設を知った方法、知名度

施設を知った方法は、マリーナおよびテニスコートと

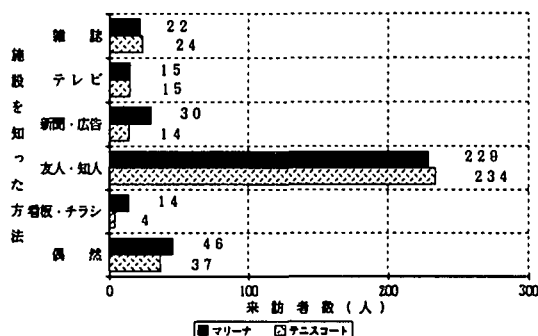


図-11 施設を知った方法

ともに、「友人・知人から」が多く、それぞれ約64%、約71%であり、いわゆる口コミにより知られることが多いことがわかる。(図-11参照)

また、知名度は、マリーナでは「よく知られている」が約33%(118人)、続いて「大変よく知られている」約25%(90人)となっているが、テニスコートでは「まあまあ知られている」が約35%(114人)、続いて「よく知られている」約26%(86人)であり、テニスコートよりもマリーナの知名度の方が少し高いようである。

(2) 現施設に関する知識

マリーナにおける現施設に関する知識としては、隣接の「ホテル海の中道プール」を約56%がよく知っていたと回答し、続いて「食事ができる」すなわちレストランとしての機能を約48%がよく知っていたと回答している。(図-12参照)

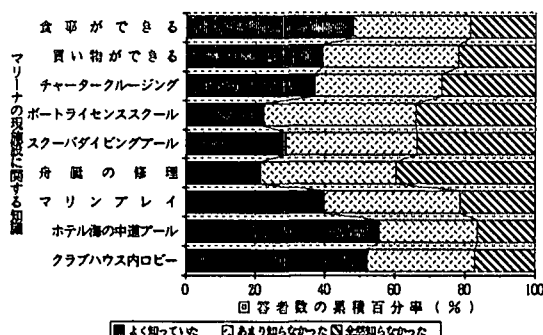


図-12 マリーナの現施設に関する知識

8. 施設利用後の意識

(1) 現施設についての満足度

マリーナについては、クラブハウス内の施設や舟艇の修理施設に関して、テニスコートについては、クラブハウスの付帯施設に関して、現施設だけで満足かどうか調査した。マリーナでは、約59%が「普通」、約24%が「満足」と、テニスコートでは、約48%が「普通」、約31%が「満足」と回答しており、マリーナについては、もう少しの設備が期待されているようである。(図-13参照)

(2) 来訪後受けた感じ(イメージ)

来訪後受けた感じ(イメージ)は、マリーナでは、約

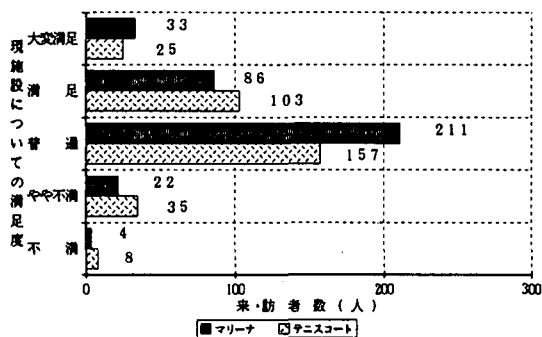


図-13 現施設についての満足度

47%が「普通」、約39%が「楽しかった」と、テニスコートでは、約53%が「普通」、約31%が「楽しかった」と回答している。(図-14参照)

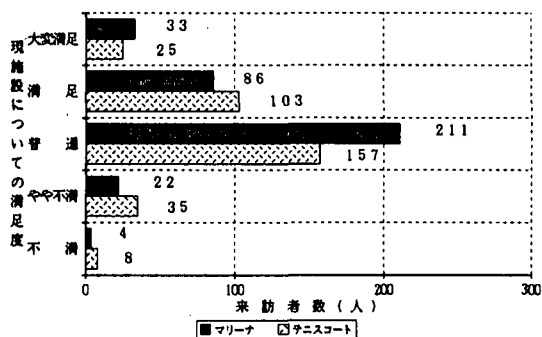


図-14 来訪後受けた感じ(イメージ)

(3) 増設を希望する施設、禁煙コーナーの設置

マリナーでは、増設を希望する施設(複数回答)として「食料などの売店」が約31%(135人)、続いて「展望台」約28%(120人)となり、「水族館」、「遊園地」、「遊歩道」などは周辺に大型の施設がすでに整備されているため希望は少ない。現在各地で流行中の「ゲーム施設など」は約7.1%(31人)と少ない。

(図-15参照)

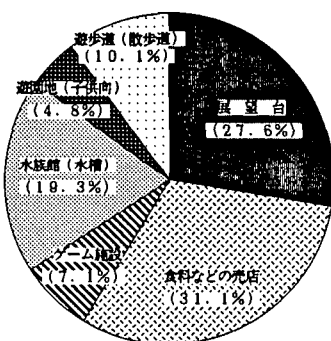


図-15 マリナーで増設を希望する施設

また、テニスコートでは、増設を希望する施設(複数回答)として「食料などの売店」が約30%(144人)続いて「シャワールーム」約29%(138人)、「休憩所」約19%(89人)となっている。子供向遊園地などは周辺に大型の施設がすでに整備されているため希望は少ない。(図-16参照)

また、禁煙コーナーの設置については、マリナーでは、現在一部の場所に喫煙コーナーが設置されており、それ以外の場所では禁煙となっていることもあり、来訪者の

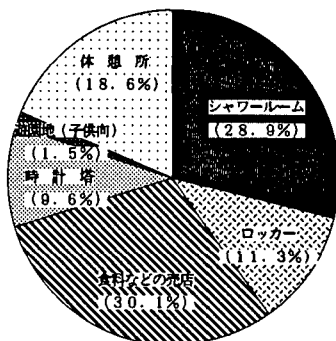


図-16 テニスコートで増設を希望する施設

約58%(208人)が「現状のままでよい」と回答している。また、テニスコートでも、「現状のままでよい」と約56%(183人)が回答している。

(4) マリナーのレストランの営業時間

マリナーのクラブハウス内レストランの営業時間(夏季)は11:30~16:00となっており、マリナーおよびテニスコートともに「現状のままでよい」がそれぞれ約54%、約64%と回答している。これは、16:00以降には、近くにあるホテル海の中道のレストランが利用できることにもよると思われる。(図-17参照)

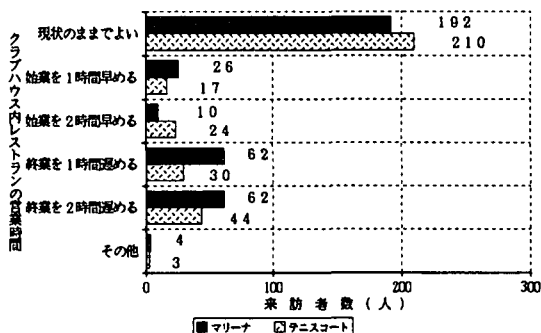


図-17 クラブハウス内レストランの営業時間

なお、テニスコートにおける、その営業時間(7:00~21:00)については、約79%(260人)が「現状のままでよい」と回答している。

(5) 公共施設としてのマリナーの必要性

マリナーにおける、公園などと比較して、公共施設としてのマリナーの必要性については、約40%(141人)が「絶対必要」、約60%(213人)が「必要」と回答しており、来訪者のほぼ全員近くが公共施設としての必要性を感じている。(図-18参照)

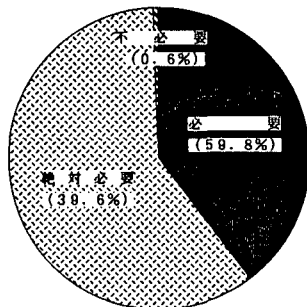


図-18 公共施設としてのマリナーの必要性

(6) マリーナ周辺に緑地などの必要性

マリーナでは、周辺にすでに緑地が整備されているため、公園が約28%、植樹が約22%となっている。

(複数回答、図-19参照)

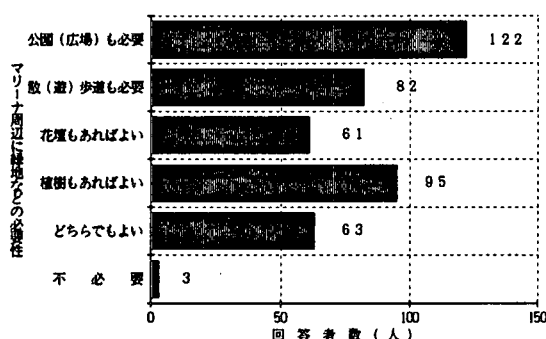


図-19 マリーナ周辺に緑地などの必要性

9. テニスコートも利用する人の調査結果

マリーナのみでなくテニスコートも併せて利用する来訪者に対する調査結果(回答数:75)は、下記のとおりである。

(1) テニスコート利用時の同行者、人数

マリーナとともにテニスコートを利用する時の同行者は、親しい友人・知人が約55%(41人)、続いて、家族約17%(13人)、サークル仲間約15%(11人)となっており、マリーナのみの利用者とほぼ同じ傾向を示している。また、利用時の人数は、4~5人が約28%(21人)、続いて、10人以上が約27%(20人)、2~3人が20%(15人)となっている。

(2) テニスコートの利用(滞在)時間

マリーナとともにテニスコートを利用する時の利用時間(滞在時間)は、2~3時間が約35%(26人)と最も多く、続いて、1~2時間が約27%(20人)、5時間以上が約17%(13人)となっている。

(3) 利用するテニスコート数

マリーナとともにテニスコートを利用する時の利用するテニスコート数(面)は、全体で14面の全天候型オムニコートに対して、1面のみが約41%(31人)、続いて、2~3面が約36%(27人)、4~5面が約13%(10人)と比較的少人数グループでの利用が多

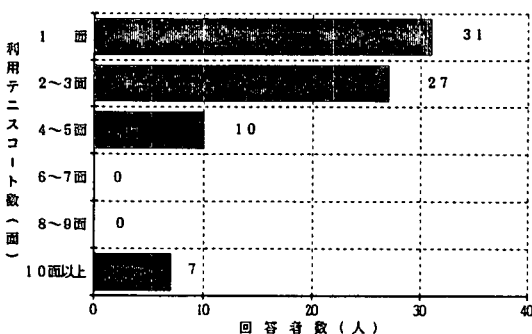


図-20 利用するテニスコート数

い。(図-20参照)

(4) テニスコートを知った方法、知名度

マリーナとともにテニスコートを利用する来訪者のテニスコートを知った方法は、「友人・知人から」が約67%(50人)と多い。また、テニスコートの知名度は、「よく知られている」が約37%(28人)、続いて、「大変よく知られている」約31%(23人)、「まあまあ知られている」約23%(17人)となっている。

(5) 利用後受けた感じ(イメージ)

マリーナとともにテニスコートを利用する来訪者のテニスコート利用後受けた感じ(イメージ)は、「普通」が約44%(33人)、続いて「満足」約37%(28人)となっている。

(6) テニスコート近辺に増設を希望する施設

マリーナとともにテニスコートを利用する来訪者のテニスコート近辺に増設を希望する施設(複数回答)としては、シャワールームが約39%(34人)、続いて、食料などの売店が約24%(21人)、ロッカー・更衣室が約21%(18人)となっている。

10. ま と め

都市臨海部水辺空間の利用形態の一つである海辺のホテル(福岡市のホテル海の中道)の付帯施設であるマリーナおよびテニスコートにおいて、「アンケート調査」により、利用状況ならびに利用者の意識に関する調査を実施した。主要な結論は次のとおりである。

- (1) ホテル海の中道のマリーナ・テニスコートおよびアンケート調査の概要ならびに得られたデータの一次統計量と若干の考察に主眼を置いて述べた。
- (2) 都市臨海部のホテル付帯施設であるマリーナやテニスコートに対する都市住民の利用状況や意識を明らかにするとともに、それぞれの特徴について述べた。
- (3) マリーナやテニスコートまでの所要時間と来訪者数との関係について単回帰分析を行った結果、テニスコートでは有意な結果が得られた。すなわち、所要時間が短いほど来訪者数が多い。

今後さらに他施設における調査を行って比較検討するとともに多変量解析などによる分析も進めて行きたい。

最後に、今般の調査にあたって御協力・御助言をいただいた福岡シティクラブ、九州共立大学の関係者に感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 片山正敏：都市臨海部の水辺空間における利用状況および利用者の意識-北九州市の公共マリーナにおけるアンケート調査結果-、海洋開発論文集、Vol. 10、pp. 159-164、1994。
- 2) 片山正敏：都市臨海部の水辺空間における利用状況および利用者の意識-福岡市の民間マリーナにおけるアンケート調査結果-、海洋開発論文集、Vol. 11、pp. 247-252、1995。